

椎骨動脈は、脊椎脊髄外科医が頸椎を操作するうえで、脊髄、神経根と並んで、あるいはそれ以上に、クリティカルな操作精度を要求される構造である。横突起の中を走行しているために、亜脱臼～すべりにより損傷閉鎖されることが多く、また前側方手術ではそのトランスポジションが必要となることも多い。神経鞘腫などの頭蓋頸椎移行部の操作においては、常に腫瘍との位置関係に注意して、術中も確認しながら細心の操作を行わなければならない。

取り巻く骨の減圧を行うときに、椎骨動脈の外壁を不用意に触ると攣縮に陥りやすく、狭窄、閉塞してしまう。しかし、手術中は触ることもなく、トランスポジション、減圧が完了し、ドップラーのモニターでもよい拍動が最後まで聞き取れていても、不可思議にも手術終了後数時間して、めまい、小脳梗塞を起こしたことも経験している（振動が悪かったのだろうか？）。2本あるからといって油断できないのは当然であり、その位置と血行動態、走行については、術前術中に十全なる検討とアセスメントを行いながら臨むべきものである。

このたび上位頸椎固定のエキスパートである根尾昌志教授のイニシアチブでまとめられた椎骨動脈損傷に関するこの特集の意義は大きい。佐藤先生による椎骨動脈不全の症候の整理、根尾先生による椎骨動脈損傷の実態調査の資料的なまとめからはじまり、小宮山先生・石黒先生による動脈損傷時の循環評価と治療、高安先生・青山先生による手術による椎骨動脈損傷の予防、中瀬先生・竹島先生による bow hunter's stroke の解説、放射線科・内野先生による MRA、CTA による椎骨動脈破格の診断、鈴木先生らによる外傷に伴う椎骨動脈損傷と、全体として椎骨動脈損傷のモノグラフと呼んでよい内容にまとまっている。第一人者の先生方のご協力で有意義な資料となったことは、大変喜ばしいことである。

(金 彪)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 6
(2019 年 6 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 5,400 円＋税）
(配送料別)

年ぎめ予約購読料 30,700 円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当：山岸)

印刷所／三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,
Printed in Japan

JCOPY 〔出版者著作権管理機構 委託出版物〕

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。